



フリースタイル食堂カンファレンス ディスカッション用資料

1. カンファレンスについて
2. 企画の背景
3. 日本の食品ロス問題
4. 我々のミッション
5. 活動のご提案①/②/③
6. グランドデザイン
7. 活動のご提案④ フリースタイル食堂検索アプリ“free食堂”
8. 食材提供までの流れ
9. 資金調達
10. 展開イメージ
11. ディスカッション

■ カンファレンスについて

2022年6月25日に「第一回フリースタイル食堂カンファレンス」を開催いたします。
カンファレンスを通じて皆さんでフリースタイル食堂について考えませんか？

＜主催者コメント＞

新型コロナウイルスによるパンデミックは、良くも悪くも、新しい価値観や概念を模索せざるを得ない状況に私たちを追い込みました。そして、ウクライナをめぐる報道が、私たちにまやかしの世界を押し付ける事で、いかにあからさまに、私たちが戦争へと導かれてきたのを知る事になったかもしれません。

このような状況下にあって、今こそ私たちは、私たち自身が真に求める豊かで調和した社会を目指して活動を始めなければならない時だと、強く感じます。その中で、わたしがまず目指したいのは、この国に誰一人食べられない人がいなくなる事です。

こんなにも豊かな惑星の上で暮らしながら、しかも、こんなにも優秀な人がたくさんいるにも関わらず、未だに貧困に喘ぎ、食べることさえできない人が存在するとはいったい何事なのでしょう？ 私にとっては、本当に不思議でならないのです。

もし、お金というものが無かったら、こんなにたくさんの食料を捨てられる事があったでしょうか？

また、苦勞して、捨てるほどの食べ物を生産することなどあったでしょうか？
一方で、お金は確かに便利なツールとしての役割も果たしているのは確かです。

しかし、もしこの国のすべての人たちが何もしなくても、食べることはできるとしたら、それだけで勇気が湧かないでしょうか？それだけで、もっと沢山の挑戦が出来るのではないのでしょうか。

日本の全国に、私と同じ様に考えている人が沢山いる様に思えてなりません。
そうだとしたら、みんなが知恵と力を持ってと勇気を合わせれば、きっと実現可能なはず!!

全国の勇者の皆さん、ぜひお金の無い世界を目指して、近い将来に宇宙文明とフェアに
交易を再開する事を目指して、ぜひ力を合わせて一歩前に出ましょう!!

主催者:Saarahat氏

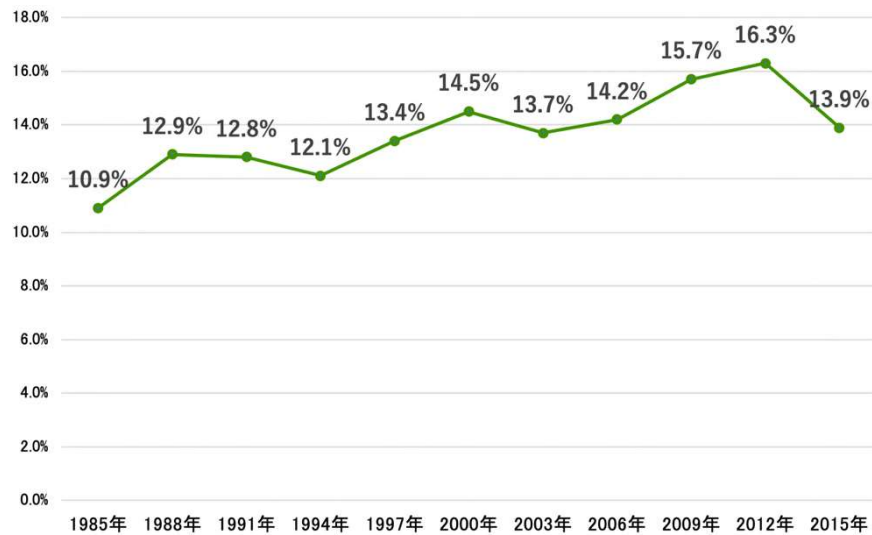


■ 企画の背景

全国にフリースタイル食堂を展開する事で、ひとり親世帯で大変なご家庭や生活保護受給者、低所得者世帯を「食」の分野から支える目的で構想いたしました。

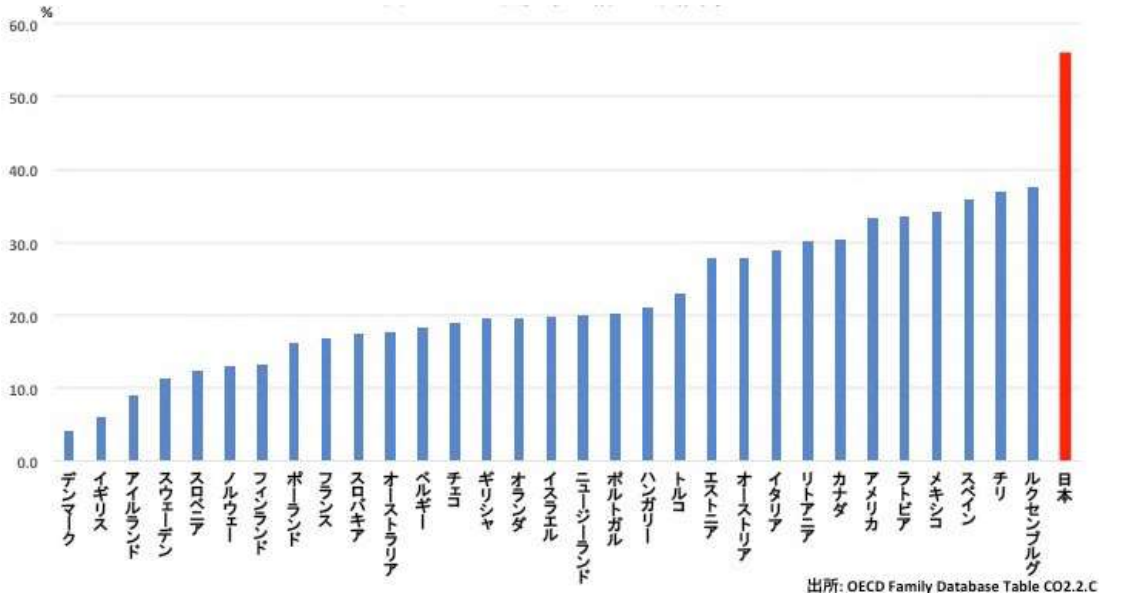
日本の子どもの貧困率

子どもの貧困率は上昇傾向



片親世帯の相対的貧困率

日本は突出して高い



■ 日本の食品ロス問題

日本の食品ロスは年間**612**万トンと推計されており、人口1人当たりになると年間約**45**kgです。全世界では年間約**13**億トンで、生産された食料のおおよそ**3分の1**を**廃棄**しています。貧困・飢餓で苦しむ人がいる一方で、膨大な量のフードロス。これは今すぐにも改善すべき社会問題です。



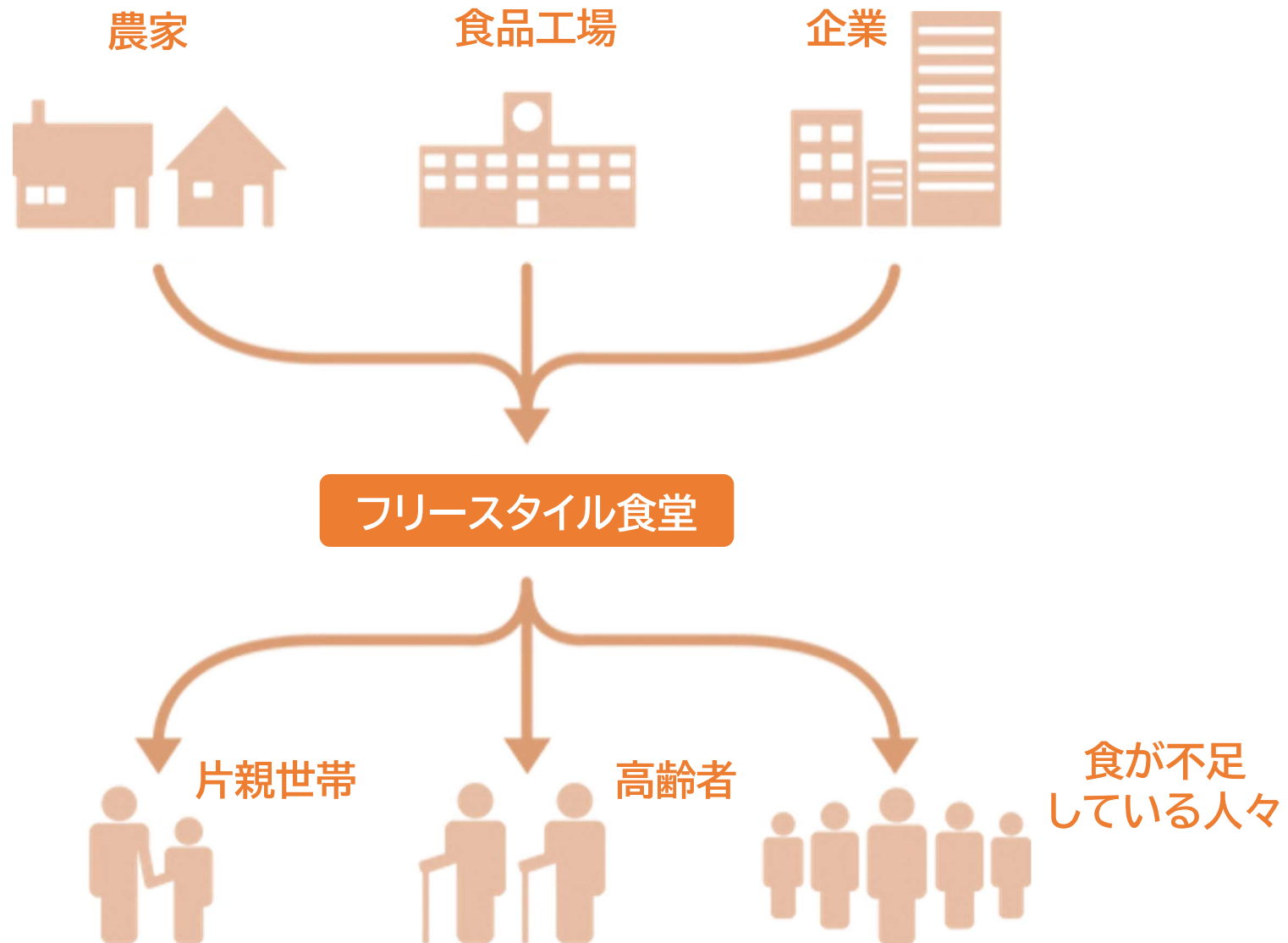
近年では「飢餓をゼロに」という項目がSDGsに盛り込まれるとともに、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、それらを福祉団体や施設などに寄付する「**フードドライブ**」といった活動も行われています。



しかし、貧困・飢餓に苦しむ子どもたちは**ただ食品をもらえるだけ**で幸せなのでしょうか？
人が作った温かい食事を楽しむことは、彼らには叶わないことなのでしょうか

■ 我々のミッション

我々のミッションは、**食の不安をなくすこと**で、**人々に生き生きした活力ある日々を提供すること**です。
これを**食の再分配を行うこと**で無料で食事が食べられる“**フリースタイル食堂**”のビジネスで実現していきます。



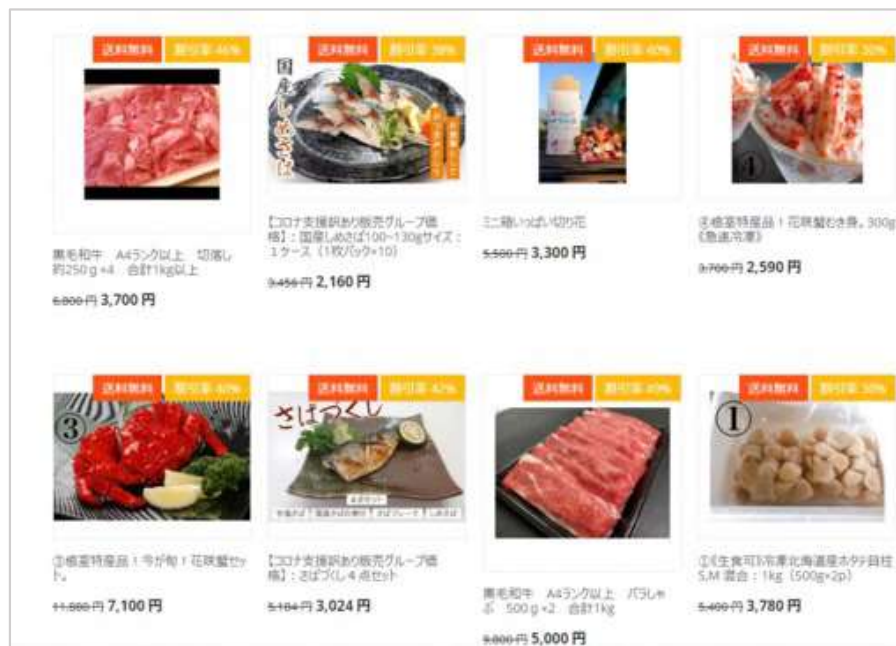
■ 活動のご提案① FBグループの新設

1つ目のご提案は、facebookグループの新設です。生産者の訳あり商品や個人で余った食料品などの情報を誰もが自由にコミュニケーションできる場として提供します。

【ご参考】

「社会貢献型通販モール:WakeAi(ワケアイ)」が2020年10月に正式オープンしています。

累計で約**20万件**以上の注文を獲得しており、フードロスに大きく貢献している取り組みの1つです。



このように、大きな枠組みでの社会的活動を実現できるプラットフォームを構築したいと考えております。

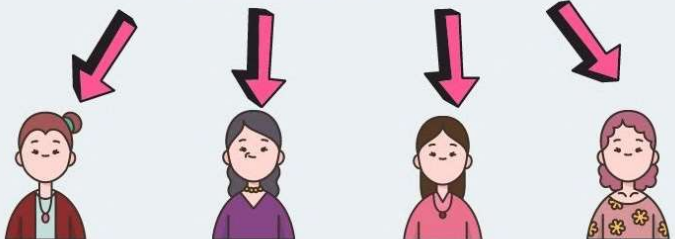
■ 活動のご提案② 皆んなの公共冷蔵庫

2つ目は、24時間365日いつでも食品を受け取れる「公共の冷蔵庫」を設置するアイデアです。これまでの食品支援は、決まった日時でしか受け取ることができず、それゆえに賞味期限にも余裕を持った食品しか扱われていませんでした。本施策はそれを解決します。

従来の食品支援



企業からの寄付
賞味期限2か月以上ある商品



2か月に一度、パントリーで支援を受け取れる



皆んなの公共冷蔵庫

企業からの寄付
流通から外れた販売期限きれの商品
賞味期限ぎりぎりまで受け取れる
大量の食品に対応できる



365日、24時間、受け取りたいときに受け取れる



■ 活動のご提案③ 店休日を利用した子供食堂(フリースタイル食堂)の開催

3つ目は、飲食店の定休日を利用して実施する子供食堂です。
実際に板橋区でこの取り組みを行っている店舗があり、ヒアリングを実施しました。

＜ヒアリング内容＞

今年の4月から、月に2回子供食堂を実施しています。
対象は中学生以下。一日30人～50人(出来れば100人)を目標にしています。
保護者一名も一緒に食事を提供しています。

板橋は貧困が多く、最寄り駅の南口がスラム街のようになってしまっていて
子供の居場所がないんです。

小学校1年～3年は学童保育がありますよね。
でも小学校4～6年の高学年が安心して遊べる場所がありません。
それを少しでも改善したくてはじめました。

今は12時～15時を昼食の時間、15時～17時を遊ぶ場所、勉強する場所
として提供しています。

来年までにはボランティアの調理、勉強教えてくれる方を増やして
月4回に増やしたいと思っています。

また、地域の飲食店と協力して店休日を使って、地域で連携を図っていきます。
一店舗は協力してくれる店を見つけました。



同じ市町村でまずは3人のメンバーを集める事を目標にして、
取り組みを実施したいと考えております。

■ グランドデザイン

ミッションの達成に向け、以下のようなグランドデザインを構想しております

形成

運用

拡大

低所得者・片親世代にスポットライトを当て、
日本中に賛同者を募る(集合意識の獲得)



全国の農家、レストランなど
登録店舗の管理(基盤の確立)



サービス受給者要件の変更



■ 活動のご提案④ 全国のフリースタイル食堂検索アプリ“free食堂”

企画の概要

検索アプリ“free食堂”を開発し、ユーザーが全国のフリースタイル食堂を検索できるようにいたします。
「食ベログ」や「ぐるなび」のように、**食べたいときに食べたい場所で温かみのある食事**を取れる、
そんな活用のされ方を目指しています。

free食堂の3つの機能

農家×農家 のマッチング



余剰で生産された食材を農家間で交換可能になります。

※農家によって野菜が余っている、お肉が余っている等自由に交換可能

農家×レストラン のマッチング



「free子供食堂」に加盟された店舗やレストランが農家から配送費のみで食材を受け取ることが出来ます。

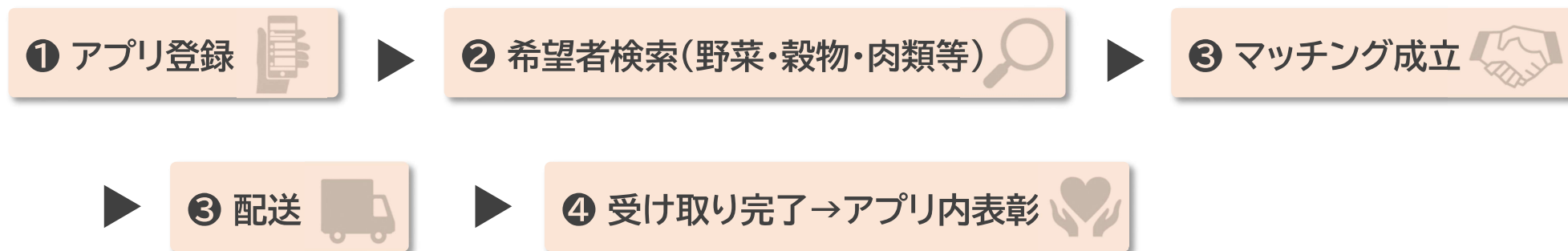
(一社)日本フリースタイル食堂 ×加盟店



一般社団法人で認証マークを発行し加盟店には証明書を発行いたします。

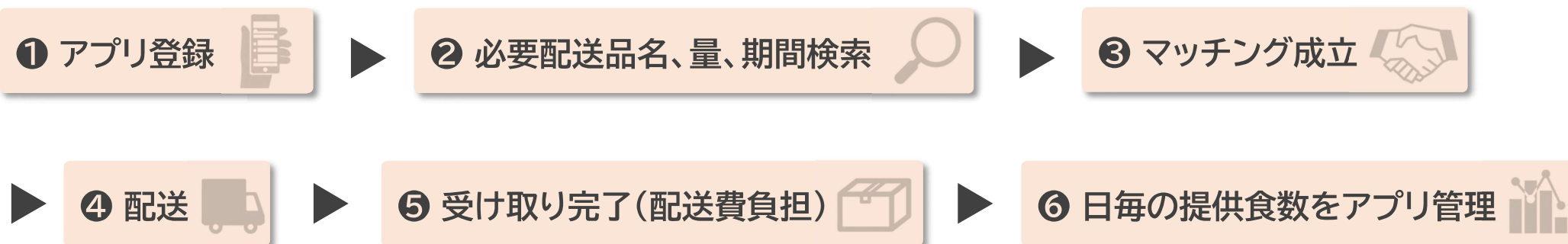
■ 食材提供までの流れ

農家(食品提供者)のケース



※ポイントやトークン付与も検討いたします

レストラン・店舗(食品受け取り者)のケース



※アプリを導入する事で「どこでどれぐらいの食材が余り」、
「どこの地域でどのように再分配されたか」が管理出来るようになります。

■ 資金調達(クラウドファンディング)

クラウドファンディングのプラットフォームを使用し、スピーディな資金調達を図ります。

CAMPFIRE (キャンプファイヤー)



【手数料】

12% + 決済手数料5% = 17%

【特徴】

クラウドファンディングでも一番認知度の高い「購入型」のクラウドファンディングサービス。

GoodMorning (グッドモーニング)



【手数料】

4% + 決済手数料5% = 9%

【特徴】

“社会問題と向き合う人のクラウドファンディング”、言わば「ソーシャルグッド」領域に特化したサービスを提供している。

■ 展開イメージ

我々が目指すのはフリースタイル食堂の普及と日々の食生活から不安を取り除く文化の発展です。
まずは日本でこの動きを広め、ゆくゆくはアジアにも拡大し“アジアフリースタイル食堂”を展開していきます。



日本だけでなく、**世界中の食の不安をなくす事**で人々に生き生きした活力ある日々を提供してまいります。



フリースタイル食堂カンファレンスを通じて
“笑顔が循環する社会”を創っていきます



■ ディスカッション(今やるべき理由)

ビジネスとしての視点

家庭としての視点

社会的な視点

霊的な視点